

平成 28 年度

# 1 自己評価及び外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム青笹

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390800068		
法人名	有限会社 介護施設あお空		
事業所名	あお空グループホーム青笹		
所在地	岩手県遠野市青笹町青笹11-3-11		
自己評価作成日	平成 29 年 1 月 13 日	評価結果市町村受理日	平成29年4月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kairokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=0390800068-00&amp;PrefCd=03&amp;VersionCd=022">http://www.kairokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=0390800068-00&amp;PrefCd=03&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通二丁目4番16号
訪問調査日	平成 29 年 1 月 30 日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設の周りに、保育園・小中学校、駐在所があり、恵まれた環境に立地しており、保育園・小中学校との交流をしたり、職員の子供が気軽に出入りする環境を作っている。又、ライフサポートワークプランを取り入れ、出来る事出来ない事を見出し、利用者様本位のケア、支援をしている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

保育園や小・中学校、地区センター等公的機関が集積している中心部に立地し、階下に小規模多機能型事業所、併設で高齢者優先賃貸住宅を同一法人が運営している。朝、夕、職員や近隣の子供たちの出入りもあり子供たちの元気な声や活潑な行動が、利用者の笑顔・笑い声となりホームの理念の一項目「笑顔・笑い声の絶えない環境に！」の一役を担っており、職員は真心と優しさでアットホームな空間を目指した支援に邁進している。ホームが地域の1世帯として普通に付き合い暮らせるよう運営推進会議を通じた地域住民との交流の橋渡しや避難訓練参加など、利用者の安全・安心を共に考えながら協力体制を整えている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

【評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会】

事業所名 : あお空グループホーム青笹

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームの理念について研修を開催しスタッフ全員が理解できるようにした。又、理念を施設内に掲示し毎日再確認できるようにしている。	開設5年の節目を迎え昨年夏に全職員が理念を再度検討し「利用者の声に耳を・真心で寄り添い・笑い声の絶えないアットホームな環境に」を新たに理念として掲げた。ホーム内に掲示し、毎月のフロア会議で確認し合い利用者が安心して満足できるケアを心がけている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の避難訓練に参加したり、ホームの行事に地域住民に参加して頂き、交流の機会を設けている。	事業所情報を定期的に回覧し地区自治会との密な連携が図られている。管理者は地域の新年会や総会に参加し認知症への理解を得ながらサポーターの拡大に努めている。保育園児のハロウィン訪問、中学生の除雪ボランティア、正月餅つきボランティアの受け入れと普段着での交流が行われている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座を小学校で開催したり、地域の民生委員の会議等でも、認知症養成講座を開催する予定である。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	テーブル上の会議だけではなく、避難訓練や行事にも参加して頂き、実際に体験することで現状や課題等の意見を頂いている。	行政、地域代表、小中学校、駐在署等で構成し、小規模多機能事業所と合同開催している。新年会や食事会、避難訓練等と併せて開催しながら、AEDの設置や空調騒音等に対する忌憚のない意見・提案をサービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者も運営推進委員になっており、状況の報告のほか情報交換も行っている。	包括支援センター職員は運営推進会議の委員として事業所の状況を把握し、相談しやすい関係にある。「遠野健康福祉の里」内には介護・福祉行政関係機関があることから、協力体制を築きやすい環境にある。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修は行っていないがフロア会議を月に一度開催しているためその都度言葉の使い方や声掛けの仕方等を指摘し合っている。	言葉がけを含め話し合いを重ねながら身体拘束のない支援として、例えば、希望利用者の床布団、帰宅願望利用者には寄り添い散歩や自宅方面のドライブと、一人ひとりの状況に応じた支援に取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は、虐待の事件、ニュースを見たり聞いたりしたときは、会議や申し送り等ではなし、他人事ではないことを意識付けしている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度は、研修の機会を設けることが出来なかったが、個々の必要性を感じた時は、ケアマネと話し合ったりしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、重要事項説明をし、不明な点は質問を受けて契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設内の玄関に意見、要望書を置き、出された際は検討会を行うことにしている。又面会時には職員が必ず声をかけ気軽に話せる関係作りに努めている。	家族には毎月「今月の様子」として利用者ごとに出来事や健康状態を写真入りで送付し、電話や面会時に話題とし感想や要望意見を聞いている。意見や要望は多くはないが、物品購入の希望など計画的にケアに組み入れ、利用者に届くようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者の参加しないフロア会議で、職員が意見を出し合い、あお空グループホームを職員自らが作り上げるようにしている。その出された意見に対して、必要に応じて管理者としての意見を述べたり、担当者会議を開催している。	何でも話しやすい雰囲気配慮し、毎月のフロア会議で出された意見は管理者に繋げ、管理者は代表者と随時連絡しながら運営に反映させている。車いす対応に容易なトイレ入口の工夫、手すり取付け位置の見直し、浴槽すべり止めの導入も職員意見によるものである。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表と管理者の話し合いは、月に1度は行うようにし、現状の報告は行うようにはしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加した職員が施設内研修での講師になり、職員のスキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホームと合同で認知症カフェを開催したことで、交流の機会が増え、勉強会や意見交換ができ、		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の情報をケアマネから職員に伝え、居室担当を中心に本人の思いを探りながら、ミーティング等行い、職員全員が共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込みの段階から、申し込み理由を把握し、家族の思い、悩みなどに耳を傾けて、関係づくりをしている。また、その旨も職員伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談・申し込みの段階から事業所の特徴を説明し、ご本人・ご家族の思いに対応できるか判断し、状況から困難であれば他のサービスなど紹介している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活において洗濯干し、茶碗拭き、買い物等職員と一緒に活動している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に一度手紙を出し普段の様子や現在の状況を報告している。又、面会時にはご家族様と話し利用者様のことを一緒に考えられるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	開所から5年を経過し、併設の高齢者賃貸住宅の入居者となじみの関係が出来ており、自由に行き来している。	馴染みの関係は疎遠になりつつあるが家族や友人等が参加しやすい行事を計画し、訪問面会を呼びかけている。敬老会や運動会など地域との交流の機会に顔馴染みの人との出会いがあったり、併設の高齢者賃貸住宅入居者との新たな馴染みの関係ができて利用している利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲のいい利用者様で同じ作業をしたり、居室を行き来し会話を楽しんでいる。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居時には、入居中の情報提供をしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様との会話の中で気持ちをキャッチできるような会話を心掛けている。又、ライフサポートワークプランを活用し居室担当を中心に利用者様の思いをくみ取り職員に周知しケアしている。	入居時に把握した内容を含め、利用者一人ひとりの思いを居室担当を中心に職員同士で話し合い、それぞれのライフサポートプランにまとめている。生活歴を参考に「利用者とのアイコンタクトをとる、話しかける、そっと触れる(ユマニチュードの方法)」を心がけて対話している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様に聞き取りをしたり、ご本人様との会話の中で把握し、職員間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の行動や言動を見守り些細な変化でも職員間で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様の変化を日々観察し状況に応じて随時ミーティングを行い柔軟に対応している。	本人の思い、家族の要望や日々の支援を通じた気づき等を日誌に記録し、職員で情報を共有しながら計画作成担当者がライフサポートプランを活用して計画を作成している。定期的なモニタリングに併せ必要に応じて随時見直しをしているが、遠距離家族との連携をさらに深めたいとしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々ミーティングを行い些細な事でも気づきとして取り上げ、情報を共有しケアの統一に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家の様子等気になっている利用者様には自宅への外出に付き添ったり、急きょご家族様が受診対応出来なくなったときには職員が受診に付き添っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のお店に出掛けたり、保育園、小中学校の運動会などに参加し地域とのつながりを切らさないようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に定期的に受診したり、訪問診療して頂き主治医との情報共有に努めている。	主治医との連携は密で、原則家族同行の受診としているが殆んどは職員が同行し、その結果を電話等で家族へ伝えている。小規模多機能兼務の看護師が日常の様子を把握している。なお訪問医が来所しており3名が利用している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調に変化がある時は看護に報告し指示を頂いている。必要があれば受診の援助をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	他利用者様の受診時など病棟まで様子を見に行ったり、必要物品を届ける際看護師の方と情報共有している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りの話をし、体調に変化がある時など、時期をみて家族や主治医と話し合い、支援している。	重度化や看取りを含めた終末期対応指針があり入居時に説明し、理解を得ている。かかりつけ医の協力で看取り経験もあり、現在も家族・本人の意向で看取り移行の利用者を支援している。不安を抱く職員もいるが、研修を行い意識の共有と対応力の向上を図りながら可能な限り終の棲家的ホームでありたいとしている。家族に囲まれ思い出話をし見守られながら看取られた方もいる。	本人の思いや家族の意向を尊重し、かかりつけ医の理解と協力の下に看取りも辞さない方針で支援をしている。重度化や終末期支援に不安を抱いている職員もいることから、管理者、看護職を中心に研修、話し合いを重ねながら、一層の介護力向上と職員意識共有を図られることを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている	研修担当が中心となり救命講習の研修を行っている。		
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災担当が中心となり夜間の避難訓練を行った。その際運営推進委員や地域住民の方にも参加して頂き協力体制を気づいている。	ホームは2階居住であり災害時夜間体制に不安が多く、運営推進委員や近隣住民の協力を得て日没後暗闇の中で避難訓練を行った。緊急連絡網、誘導方法、避難場所の課題を再確認し計画の見直しをしている。市主催の防災訓練にも利用者と共に参加し、さらなる広範な地域住民の支援協力を得られるように努めている。	夜間訓練の実施による多くの課題把握を一つの成果として、利用者の安全な避難を最優先に、事業所間の連携の確保と近隣住民の協力を確かなものとされたい。地域防災組織の方々にも事業所の実態を理解して頂き支援体制を構築することを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の個々の個性を職員間で共有しケアの統一を図っている。	職員は利用者ひとり一人が経歴、性格、状態が異なることを共有し、個性を尊重した言葉かけ、伺う姿勢の対応に努めている。入浴や着替え、トイレ誘導、個室訪問では羞恥心への配慮、入室時の声掛けマナーに留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	買い物時自分の欲しい物を購入できるように声掛けや支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の声に耳を傾け一人一人に応じた対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毛染め、美容クリームなど長く愛用しているものを購入しその人らしい身だしなみが出るよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の会話の中で何が食べたいか聞き取りとしたり、食事の形態も個々に合わせて提供している。食事後の片づけは利用者様と一緒にやっている。	ご飯と汁はホームで作り、おかずは栄養士が作った献立により業者が宅配している。利用者は片付けや食器洗いに参加している。回転寿司へ行ったり、行事食としては、ちらし寿司やひつまみなどの郷土食を作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日水分量、食事量をチェックしている。水分、食事の摂取量が不十分な利用者様には好みを把握し工夫して提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声掛けや介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を活用し、個々に合わせた時間で誘導や声掛けを行っている。	日中はトイレでの排泄を合言葉にそれぞれ感やしぐさを目配りしながら、排泄チェック表を参考に声掛け誘導をしている。夜間ポータブルトイレ併用の利用者もいるが努めてトイレでの排泄支援に心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食品や乳製品を提供している。又、状況に合わせて下剤の調整をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調や気分の良い時に入浴して頂けるような声掛けをしている。又、夜入浴も行っている。	入浴は利用者の気分に配慮しながら週2~3回の頻度を目安にしている。浴槽は個浴ですべり止めマットを活用し、ラジカセで音楽を流したり安全に気配りしながらリラックスできるように支援している。入浴を特に拒否する利用者はいないが、嫌がる時は時間や日を変える等の対応を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ホールのソファで横になったり、居室で昼寝をしたり自由になっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容をお薬情報として綴りいつでも確認できるようにしている。又、薬の変更があった場合は状態の変化の観察をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	茶碗拭き、洗濯たたみ、カーテン閉め等日常生活の役割を持って頂き張り合いのある生活を過ごせるようにしている。		
		一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様に希望を聞き外食や買い物等に出掛けている。	日光浴・外気浴を兼ね施設近辺の散歩を楽しんでいる。季節に応じ利用者の希望に沿い週2回程のドライブでは、自宅方面・花見・産直・祭り見学・温泉巡りに出かけている。家族・親戚・知人の協力での外出もある。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	大金は事務所で預かっているが少ない金額であれば本人が所持している利用者様もいる。買い物時などは所持させるなどして支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話したいときは事務所の電話や面会者のケータイ電話で話している。又、ご本人宛の手紙は本人に渡し、読めない方には職員が読んで差し上げている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔を心掛け季節ごとに室内の装飾を変えたり室温、湿度等心がけている。	2階にある共用リビングは、食卓中心のテーブル空間とソファで過ごす場に区切られ、田・畑・学校など周囲や遠方の山々の眺望を楽しめる。観葉植物が置かれ、木肌調の茶系で統一され温もりと落ち着きを感じられる。トイレの入り口は車いす利用者には不便なアコーデオンドアからカーテンに替えるなど、廊下、洗面所も清潔・安全で利用しやすく工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様同士の関係性に配慮した配置にしている。又、畳スペースやソファを利用し思い思いに過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様と相談して馴染んだものや必要としているものを持ってきて頂き自分の家と変わらない居心地になるようにしている。	ベッド・クローゼットが設置され、戸のガラス部をロールカーテンとしプライバシーに配慮しながら様子を確認できる様にしている。位牌・写真・家具・寄せ書きなど馴染みの物品を持ち込み居心地の良い工夫がなされている。転倒不安の利用者はベッドを畳式に替えるなど、家族と相談しながら安心して過ごせるように支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	リスクばかりにとらわれず、自立した生活が送れるよう、できる事は見守りしながら活動して頂いている。		